

〔川崎医療福祉学会ニュース〕

川崎医療福祉学会 第17回研究集会

日時 平成11年11月24日(水) 14:00~17:00
場所 川崎医療福祉大学・本館棟6階 6101教室

研究発表

1. 失語症患者に対する事象関連電位 P300成分トポグラフィーの検討
川崎医療福祉大学 医療技術学部 感覚矯正学科 爲季 周平
2. よりよい福祉社会を実現するための年齢概念の再検討について
川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科 近藤 功行
3. アメリカ合衆国における要医療的ケア児の学校保健サービス
兵庫教育大学大学院 連合学校教育学研究科 ○吉利 宗久
川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 津島ひろ江
4. JICA 短期専門家 タイ派遣報告
— タイ労働安全衛生センター機能強化プロジェクト —
川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科 田口 豊郁

講演

- 一開拓心理学者の心理と幻影 — 福祉学への歷程 —
(Psychology and illusion of a pioneering psychologist)
川崎医療福祉大学 医療福祉学部 臨床心理学科 大羽 素

研究発表要旨

失語症患者に対する事象関連電位 P300成分トポグラフィーの検討

川崎医療福祉大学 医療技術学部 感覚矯正学科 爲季 周平

視覚・聴覚課題を用いた事象関連電位 P300を健常成人20例、ブローカ失語症患者9例で測定し、P300成分トポグラフィーについて比較検討した。

純音聴覚課題と語音聴覚課題における P300成分は、SPMにおいて、Control 群で左後頭側頭葉領域

に有意差を認めたと、失語症群では認めなかった。本研究において失語症群の音韻認知は角回付近に限らず両側聴覚領域全般が関与している可能性が示唆された。

よりよい福祉社会を実現するための年齢概念の再検討について

川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科 近藤 功行

演者は平成8年度の厚生科学研究長寿科学研究事業の分担研究者として沖縄社会の長寿要因の解明をすすめてきた。長寿科学研究の延長として重要と思われる概念に『適寿 (appropriate age) 論』を演者は提唱したい。この概念は客観と主観が激突する概

念でもある。しかし、今の時代に残る概念が必要なのである。この概念は世の中に溢れている日本の介護の問題とも決して無縁ではない。介護する側からの視点もむろん必要。本用語構築を模索した。

アメリカ合衆国における要医療的ケア児の学校保健サービス

兵庫教育大学大学院 連合学校教育学研究科 ○吉利 宗久
川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 津島ひろ江

近年、アメリカ合衆国における学校現場では、要医療的ケア児への対応が大きな教育課題として注目され、教育関係者も複雑なケアの状況に直面する機会が増加している。しかしながら、それと同時に、学校保健サービスの性質や適用の範囲、提供者の役

割をめぐる議論が広く取り上げられ、訴訟においても大きな争点となっている。そこで、要医療的ケア児の教育状況を把握し、法解釈と判例の検討を踏まえながら学校保健サービスの実態と問題点さらにスクールナースの役割について考察した。

JICA 短期専門家 タイ派遣報告

— タイ労働安全衛生センター拡充計画プロジェクト —

川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科 田口 豊都

1999年6月1日～7月30日の2ヶ月間、国際協力事業団（JICA）からタイ労働安全衛生センター（バンコク）に派遣された。本プロジェクトは、タイ国の労働安全衛生及び労働衛生の向上を上位目標とし、労働安全衛生センター（NICE）の機能強化を

図ることを目的としている。一連のプロジェクトの中で、「生物学的モニタリング」の労働衛生管理への応用を担当した。「生物学的モニタリング」の概念及び手法についての技術移転を実践した。

講演要旨

— 開拓心理学者の心理と幻影 — 福祉学への歷程 —

川崎医療福祉大学 医療福祉学部 臨床心理学科教授 大羽 葵

「心理学は長い間不毛の分野であったが、社会の要求が高まり、それに応えることが出来るようになった」と、ハーバード大学のポーリング教授が1950年の著書で書いているのを見て、当時の学生として非常に意を強くした。臨床心理学に対する今の社会の要求に、十分な対応が出来ているとは言えないなかで、わが国最初の「学科」として、本学がしっかりした制度で教育研究を推進するようになったことに意義を感じている。

1947年旧制松山高校で宇津木保先生に心理学を教わって以来、川崎祐宣・江草安彦両先生に至るまでの多くの先生・友人等との意義深い出会いがある。特に矢田部達郎先生からは、ドイツ心理学の衰退と

アメリカ心理学の隆盛をめぐって「学問・教育が栄えるためには、制度を整えねばならない。社会への道筋もはっきりしていなければならない。」ことを教えられた。それが視聴覚・放送教育、教育工学、心理学、社会心理学、臨床心理学と、新しい講座や学科の道を創り、それを踏み固めていく者としての私の仕事につながっていたと思う。

66歳のゲーテは「遠日点とんじつてんにおいて、私は愛し、悩み、また学ぶ。」と言っているのですが……と大学の後輩が書き送ってきた。66歳になる彼はマルチン・ブーバーの「我と汝」、また最近ではハンス・カロッサ全集を出している。私も、一層の努力を心掛けたい。